



ロシアの武力による侵略や核による威嚇には反対します！戦争は最大の環境破壊です！
一日も早く、ウクライナに平和を、世界中に平和が訪れることを心より願っています



和白干潟の自然観察会（バードウォッチング）

ご案内

第10回 唐原川お掃除し隊

立花山から唐原川を経て和白干潟にいたる集水域があります。その唐原川のお掃除を、毎年1回続けてきました。護岸から川底に降りて清掃します。空き缶やプラスチックゴミや粗大ごみも多くあります。生きもののためにも和白干潟のためにも、唐原川をみんなでお掃除しましょう！

唐原川そばにある九州産業大学学生や唐原の町内の方々にもご協力いただいて、清掃活動を実施してきました。美しい唐原川になるように頑張りましょう！

と き：10月1日（土）10:00～12:00 雨天中止、少雨決行

集 合：そとわざきばし外輪崎橋横（東区唐原3丁目）

清掃場所：唐原川河口～上流

参加費：無料

持ち物：水筒、タオル

服 装：汚れても良い服装、長そで、長ズボン、帽子、長靴

主 催：山・川・海の流域会議（和白干潟を守る会ほか）

問い合わせ：TEL：090-2397-1424（松田）



昨年の唐原川清掃

5月1日(日)第24期 和白干潟の自然観察ガイド講習会 「和白干潟の海底湧水を調べよう」報告(今林 眞由美)



和白干潟では、潮が引いた干潟に小さな流れ(澇筋)が幾筋も見られます。これが海底湧水で、潮の満ち引きに関係なくいつも湧いています。和白干潟は日本でも数少ない自然海岸のある干潟で、護岸がないため海底湧水が湧いています。この湧水は酸素が多く含まれており、干潟の生きものが育つために大切に、和白干潟の「宝」です。この「宝」を子どもたちに伝えていきたいと、海藻研究所所長の新井章吾先生に「和白干潟の海底湧水」について講義をお願いしました。海底湧水は塩分濃度が濃く、酸素を多く含みミネラルに富んだ海水で、干潟の砂でろ過されながら湧いてくるので、透明です。沿岸が砂地で雨水が畑や宅地に浸みて、その水圧に押されて湧水が湧いてきます。このように海底湧水が湧き、アサリの稚貝が育つ干潟は日本には4カ所しかないそうです。

沿岸から500mほど沖に採取用の枠を置き、湧水を採取しました。湧水を舐めてみると、塩味が濃く甘みや旨味がありました。残念ながら9年前の調査に比べるとアサリの数も、湧水量も減っていました。海底湧水の量を多くして、アサリの数を増やすためには、どのようにすればよいのでしょうか。山の木の間伐を行ない、山を元気にする。埋め立て地を元に戻し、護岸は石積にし、生きものが海辺と陸地を行き来できるようにする。庭や道路に降った雨水は下水溝に流すのではなく、「雨水浸透柵」などを設置して地下に浸み込んでいくような、水が循環する町づくりをする。自然を壊す工事ではなく、自然を保つための一次産業に優しい工事をするのが大切だそうです。アサリも湧水も少なくなり残念でしたが、今回の講習会を機会に二人の方が守る会に入会していただき、嬉しく思います。和白干潟を元気にする課題が多くありましたが、皆で知恵を出し合って保全へ向かいたいと思います。

6/15付けの福岡市政だよりに、雨水貯留タンクと雨水浸透施設の設置費用が助成されると載っていました。この機会に設置して、雨水を地下水として循環させるのもいいかもしれません。(SDGsにもなります。)



クリーン作戦報告

4月23日(土)「全国春のビーチクリーンアップ2022」
「2022干潟・湿地を守る日」参加



宣言を読み上げる

いるのでしょうか。清掃後、皆さんに望遠鏡でチュウシャクシギを見ていただきました。また、アシ原の奥に入り、特定外来種のナルトサワギクの駆除もしました。(田辺)

参加者31名、回収ゴミ27袋。

最初に参加者全員で輪になり「2022干潟・湿地を守る日宣言と和白宣言」を読み上げ、全国の干潟保全への想いを確認して、清掃を始めました。

九産大宗像ゼミの学生さんは毎回、沢田ゼミは先生も学生さんと参加。一般の参加者も18名と多かったので、清掃範囲も唐原川右岸のアシ原からゴミ置き場までと広く行え、見える範囲は綺麗になりました。最近是一般の参加者が多く、環境問題に関心を持つ方が増えて



ナルトサワギク

6月25日(土)「ラブアース・クリーンアップ2022」参加



参加者40名、回収ゴミ28袋

朝から雷が鳴り、強い雨や風でしたが、クリーン作戦が始まるころにはやみ、無事行うことができました。九産大宗像ゼミの学生さんやアストロゼネカ等の企業、ライオン、環衛サービス等の団体会員や一般の方々と、沢山参加いただきました。東京から参加された方は、都会のそばにこんな自然豊かな所があることに感動したそうです。(田辺)



観察会報告（2022年5月～6月）

（松田 元）

5月10日（火）香椎保育所さくら組（年長児40名、先生7名）



薄い雲がある晴れた空で、ちょうどよい気温の観察会日和でした。初めに山本代表が生きもの手袋と紙芝居を使って和白干潟の紹介をしました。「以前は泳げる海でした。埋め立てや人口の増加で、海が汚れて泳げなくなりましたが、また泳げる海にしたいです。皆さんは自然を守る人になってください。」とお願いすると「はい」と大きな声が返ってきました。次のバードウォッチングではダイサギやアオサギ、マガモ、チュウシャクシギを観察しました。干潟の中ではコメツキガニの巣穴がたくさんあり、子どもたちはカニ掘りに夢中になってなかなか動きませんでした。さらに沖に歩き、アサリやオキシジミの他、たくさんのマメコブシガニやケフサイソガニなどの生き物に会うことが出来ました。もどる途中の干潟で輪になり、生きものの紹介をし、多くの質問や感想を聞き、久々に子どもたちの歓声が和白干潟に広がった一日でした。（今林）

5月15日（日）センスオブネイチャー（子ども20名、大人7名）

今回は、山や海など色々な自然を体験しようと集まった、小学生と幼児の子どもたちのグループでした。事前に自分たちで持参したテントを設営されていました。自己紹介の後、山本代表が紙芝居を使って干潟を守るきっかけや和白干潟の概要を話しました。バードウォッチングでは、自分たちで望遠鏡を操作して熱心にサギやカモを観察していました。干潟の生き物観察では、アシハラガニがいなかったため、唐原川河口のコメツキガニ探しに行き、バケツはコメツキガニでいっぱいでした。沖を歩きアサリ探しの途中、イカの卵やクルマエビなどを見ることができました。今年はアサリが少なく、一人一個を目標にアサリ掘りを体験してもらいました。思ったよりもアサリが多く採れ、浄化実験ができました。最後の質問や感想では「干潟を掘ると黒いところがあるのはなぜか」などの質問や、干潟の観察会は楽しかったなどの感想がありました。さすがに皆さんは熱心さがありとでも良かったです。（山之内）



6月8日（水）和白小学校4年生（児童100名、先生5名）



空は快晴、風は爽やかで絶好の観察会日和です。和白川河口から浜辺を歩いて海の広場に来た子どもたちは「こんにちは」「クラゲがめっちゃあった」と元気な声がたくさん聞こえました。山本代表が初めの挨拶をし、紙芝居を使って和白干潟の歴史や特徴と和白干潟を守る会の成り立ちを紹介しました。次のバードウォッチングでは、今は鳥が少なく、カラシラサギとカワウが観察できました。海の広場から和白寄りの沖へコメツキガニを掘りながら波打ち際まで行きました。みんな熱心にカニを探して、なかなか波打ち際まで着くことが出来ませんでした。「カニってクモに似てるよね」とか「マテガイおらんと?」「ここのアサリっておいしいのかな?」と興味は尽きません。潮が満ちてきてアサリは掘りにくかったけれども、浄化実験ができるくらいは採れました。タマシキゴカイの糞塊がたくさんありました。和白川河口では望遠鏡でハクセンシオマネキを観察しました。集合して輪になり今日の生き物の確認と、アサリとウミニナが濁った海水を綺麗にする浄化実験結果を見せました。感想や質問が多くあり、有意義な一日でした。終わりの挨拶の後、みんな元気に帰って行きました。（今林）



和 白 干 潟 の 夏 の 自 然 だ よ り

(山本 廣子)

夏に咲く花

夏の和 白 干 潟 沿 岸 で は、アシ が 元 氣 に 大 き く 育 ち、木 々 や 草 に も 花 が 咲 き 実 が な り ま す。ヒ ト モ ト ス キ に 穂 が 出 て き ま す。ハ マ ボ ウ の 木 に は 黄 色 い 花 が 咲 き ま す。



ハマナデシコ (ピンクの花)



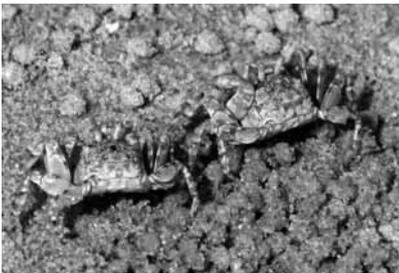
ハマゴウ (うす紫の花)



ハマボウ (黄色の花)

干潟のいきもの

夏の和 白 干 潟 で は、生 き も の た ち の 活 動 が 活 発 に な り ま す。カ ニ が ツ メ を 振 る 繁 殖 行 動 も 見 ら れ ま す。干 潟 は 一 面、ウ ミ ニ ナ の 仲 間 に 覆 わ れ ま す。夏 は 干 潟 の 生 き も の の 生 命 で あ り ま す。



コメツキガニ



ハクセンシオマネキ



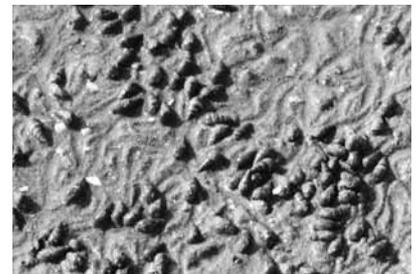
マメコブシガニ



アシハラガニ



オキシジミ



ウミニナ

夏の鳥たち

カモ たち は 繁 殖 の た め に シ ベ リ ア な ど の 北 国 に 渡 り、留 鳥 の サ ギ 類 が 子 育 て を し て い ま す。夏 鳥 と し て コ ア ジ サ シ、オ オ ヨ シ キ リ、コ チ ド リ な ど が 渡 っ て き て、和 白 干 潟 周 辺 で 子 育 て を し ま す。



コサギ



オオヨシキリ



コチドリ

福岡市のプラスチックリサイクル モデル事業への懸念

2022年4月から国において「プラスチック資源循環法」が施行されたことにより、福岡市では、プラスチックのリサイクル推進に向けた課題を検証するため、プラスチック製品の回収モデル事業が実施されます。回収するプラスチック製品は、「プラスチック素材のみ」でできたもので一辺の長さが50cm未満のものが対象で、洗面器、書類ケース、食器、食品保存容器、バケツ、ハンガーなど指定された20品目が選ばれています。回収場所は、東区役所・城南区役所・博多市民センター・中央体育館など市内9か所の公共施設の資源物回収ボックスとなっています。実施期間は、令和4年5月23日～令和5年3月31日です。

福岡市もプラスチックのリサイクル事業に取り組むようになりましたが、回収場所が区役所などだけでは、例えば「和白」や「西戸崎」の人は、車が無ければなかなか持って行けないですね。回収事業の先行きが危ぶまれます。

第11回 福岡市環境行動賞 奨励賞を 守る会会員の木下英生さんが受賞しました。

木下さんは海辺や川で環境美化活動を続けてきました。「海ごみラボ」で参加を呼び掛けて、仲間と活動しています。和白干潟で清掃活動に参加された時、和白干潟を守る会にお誘いしました。

奨励賞受賞、おめでとうございます！



「30by30」(サーティ・バイ・サーティ)って知っていますか？



30by30は、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させるというゴールに向け、2030年までに自国の陸と海の30%以上を健全な生態系として保全・保護することを目指し、2021年6月に英国で開催されたG7サミットにおいて、コミュニケの付属文書として合意されました。

我が国では、その実現に向けて2021年8月27日、環境大臣から30by30基本コンセプトが発表され、国立公園等の保護地域の拡充に加え、保護地域以外で生物多様性の保全に資する地域OECM (Other Effective area-based Conservation Measures) を設定することを通じて2030年までに我が国の陸域・海域の少なくとも30%を保全・保護することとしています。

その実現に当たっては、民間等によって保全されてきたエリアをOECMとして認定する取り組みを進めるため、有志の企業・自治体・団体の方々による「生物多様性のための30by30アライアンス(連盟)」があります。九州の自治体としては北九州市が参加しており、和白干潟を守る会も4月に参加登録をしました。私たちも素晴らしい「和白干潟」を未来の子どもたちに残して行きたいですね。

和白干潟を守る会のリーフレットを改訂し、増刷しました。

会員や関係者の方には、今回送付いたします。



気が付いたらあなたも電話してください！

海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時
092-282-7146 (港湾空港局・維持課)

沖のアオサをとってほしい時
092-282-7154 (港湾空港局・みなと環境政策課)



傷ついた野鳥を見つけた時 092-513-5611 (福岡県筑紫保健福祉環境事務所・地域環境課)
092-643-3367 (福岡県環境部・自然環境課・野生生物係)

＊ ＊ お 願 い ＊ ＊

干潟でのゴルフやラジコンの練習はやめましょう！
とても危険です。

干潟や堤防で火気を使うことはやめましょう！
(花火、バーベキュー、ゴミを燃やすこと)
火災の危険があります。



活動日誌

(山之内 芳晴)

2022年3月

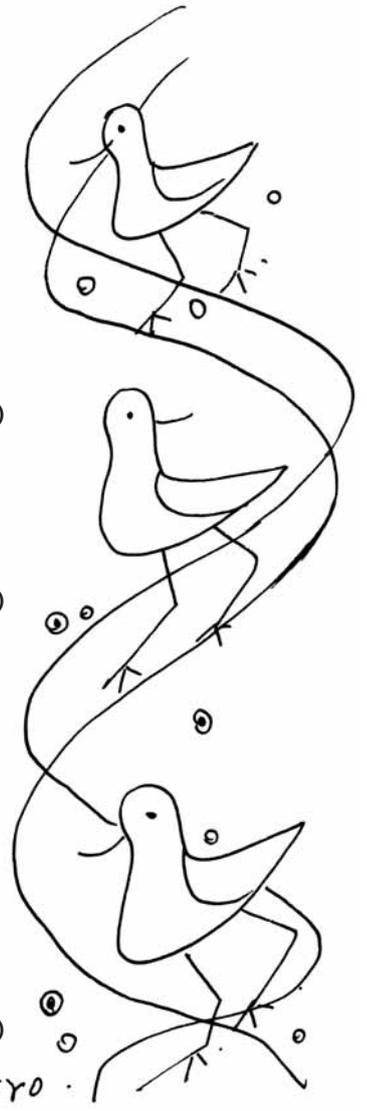
- 3/1 (火) 和白干潟通信141号編集会議
- 3/8 (火) 2021年度冬期シギ・チドリ調査報告書作成
- 3/10 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 3/12 (土) 山・川・海の流域会議総会参加
- 3/13 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会福岡支部)
- 3/21 (月) 和白干潟通信141号編集会議
- 3/26 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察

2022年4月

- 4/3 (日) 2022年度 春期シギ・チドリ調査1回目(今津)
- 4/10 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 4/12 (火) 和白干潟通信141号発送会
- 4/13 (水) 2022年度 春期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
- 4/14 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 4/19 (火) センスオブネイチャー代表と和白干潟観察会打合せ
- 4/23 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 4/26 (火) 香椎保育所の先生と和白干潟観察会の打ち合わせ
- 4/27 (水) 2022年度 春期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)

2022年5月

- 5/1 (日) 第24期 和白干潟の自然観察ガイド講習会
- 5/1 (日) 2022年度 春期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 5/4 (水) 帝京科学大学大学院生などの和白干潟案内
- 5/8 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 5/10 (火) 香椎保育所さくら組の和白干潟自然観察会
- 5/12 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 5/12 (木) 2022年度 春期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 5/14 (土) 山・川・海の流域会議参加
- 5/15 (日) センスオブネイチャーの和白干潟観察会
- 5/16 (月) 2022年度 春期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
- 5/28 (土) 定例会議 / 和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 5/31 (火) 和白干潟通信142号編集会議
- 5/31 (火) 和白小学校の先生と和白干潟観察会の打ち合わせ



干潟のつばやき「アシハラガニが少なくなりました！」

モクズガニ科アシハラガニ属のカニです。河口や内湾の砂泥干潟など浜辺のアシの生えているような場所に生息し、砂泥に直径3-4cm、深さ40cmほどの巣穴を掘って生活しています。食性は雑食性で主食はアシの葉などです。和白干潟では、海の広場横のアシ原付近にいます。干潟のカニの中では、大きくて子どもたちに人気のカニです。そのアシハラガニが、最近の観察会では見ることが少なくなりました。海の広場横のアシ原に入ってみると地面に水がありません。アシ原奥まで行って見ましたがやはり水はありませんでした。

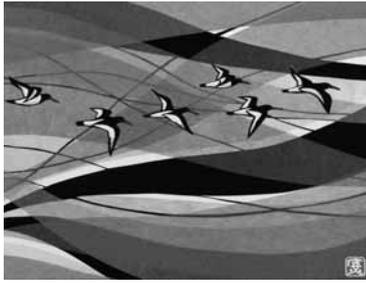
ここ1、2年コロナ禍で観察会も少なく、しばらく見ない間にアシ原の環境が大きく変わってきているようです。アシハラガニがいけないのは、最近雨が少ないせいなのか、別の原因なのか。梅雨に入ればたくさん雨が降るでしょう。梅雨明けにまたアシ原で、たくさんのアシハラガニに会いたいですね。



アシハラガニ

和白干潟と私 6

私は1974年に故郷の和白に帰ってきましたが、結婚して子どもが生まれることになりました。自宅の台所で油絵を描いていましたが、子どもには油絵の絵具の顔料が鉛やカドミウムなど毒が多く含まれており、また臭いもきつく、油絵が描けなくなっていました。そんな折、私の小中学校の同級生だった片山みつこ（旧姓小林）さんが日中友好協会福岡支部で福岡きりえ同好会を作り、きりえの普及活動をされていたのです。福岡きりえ展があるときに誘ってくれました。きりえ展は天神で開催されていました。見に行った私は、きりえがとても気に入りました。カッターで黒和紙を切ったシャープな線、色和紙の柔らかな風合いなどが好きでした。そして油絵のように匂わず、毒も無く、すぐに片付けられ、これから子どもを育てることになる私にはピッタリの素材でした。そして、福岡きりえ展の「福岡を切る」というテーマも気に入りました。私はすぐに「和白干潟を切る」というテーマにしました。実は私は最初女性を描くのが好きだったので、和白干潟以外にも女性をテーマにしたきりえ作品を作っていました。福岡きりえ同好会に入会したのは1982年ですので、和白干潟を守る会を作った頃より前です。日本野鳥の会に入会したのは1983年です。和白干潟を守る会は1988年創設です。



きりえ作品「風のように」

それからは和白干潟のすばらしさをきりえ作品にしていこうと決めて、和白干潟の鳥やカニなどの生きもの、沿岸の植物や風景などを描いて、きりえ作品を制作してきました。（山本 廣子）

活動報告

5月4日(水)帝京科学大学大学院生など3名の干潟案内

和白干潟通信140号の「和白干潟のふしぎ」でカラスがオキシジミをコンクリートに落として食べていると書いた文章を見てメールをいただき、和白干潟を案内しました。この通信は会員の松藤さんが西南大学の恩師に差し上げたもので、帝京科学大学でカラスの研究をしている息子さんが関心を持たれ、ご両親と一緒に来られました。割られたオキシジミの殻が落ちている福岡市道のコンクリート舗装のところから、干潟を観察しながら、唐原川を渡ってもう一ヶ所のカラスが貝を落とす場所まで行きました。沢山の干潟の生きものたちを見ることができて、皆さん楽しそうでした。オキシジミは持ち帰り食べてみるそうです。カラスはクルマの実もコンクリートに落としたり、自動車にひかせたりして、食べるそうです。（山本）



イオン黄色いレシートキャンペーン 2021年度分を贈呈頂きました

全国のイオン店では毎月11日に「イオンデー」として黄色いレシートが発行されます。そのレシートを自分が応援したいボランティア団体の「投函ボックス」に入れると、その団体にレシート金額の1%相当が寄贈されます。4月11日に2021年度分のギフトカード贈呈を受け、プリンタインクやコピー用紙を購入しました。「和白干潟を守る会」の投函ボックスにレシートを入れていただいた多くの皆さまとイオン香椎浜店に感謝いたします。イオン店の黄色いレシートは全国どこで発行されたものでも構いません。和白干潟を守る会に送ってくださると有り難いです。

守る会問い合わせ窓口

ホームページ: <http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

入会 / 観察会 (申込等)
クリーン作戦
広報 / 調査 / 定例会議
干潟まつり

山之内 芳晴 Tel. 090-8412-2663
田辺 スミ子 Tel. 090-1346-0460
山本 廣子 Tel/Fax. 092-606-0012
中嶋 伸子・松尾 満子 Tel. 090-9651-8489



お知らせコーナー

(田辺 スミ子)

★国際ビーチクリーンアップ参加ゴミデータ調査★

世界一斉の環境保護キャンペーン。海岸のゴミを調べます。クリーン作戦時に実施。ぜひご参加ください!

- 日時：9月24日(土) 15:00~17:00
- 集合：和白干潟・海の広場
- 主催：和白干潟を守る会
- 問い合わせ：090-1346-0460(田辺)

和白干潟のエコチャレンジ

“アオサのお掃除大作戦”

- 日時：9/25(日)、10/8(土)
★14:00~16:00
11/5(土)★13:00~15:00
- 集合：和白干潟・海の広場
- 主催：和白干潟保全のつどい(守る会ほか)
- 問い合わせ：090-8412-2663(山之内)

定例スケジュール

●定例会議(7/23、8/27、9/24)

毎月第4土曜日12時~14時 守る会事務所にて開催

以下は参加自由です。仲間が待っています!

●クリーン作戦と自然観察(7/23、8/27、9/24)

毎月第4土曜日15時~17時 和白干潟・海の広場集合
※長靴があると便利 駐車場なし

●和白海岸探鳥会(8/14、9/11、10/9)

毎月第2日曜日 9時~12時 JR和白駅前の和白公園集合
参加費：会員100円、一般300円、中学生以下無料
主催：日本野鳥の会福岡支部

★会員募集中

年会費：個人 2,000円
団体 5,000円

★カンパのお願い

郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い(車の運転、記録)、観察会のお手伝い(写真撮影)などです。

参加をお待ちしています!

和白干潟の鳥たち(その98)

ミサゴ(タカ科 Osprey) 鷲 [全長57cm]



(写真撮影：三宅 僚)

ミサゴは和白干潟では一年中見られます。雌雄同色です。成鳥は頭部が白っぽく、背面は黒褐色で胸や腹は白いです。魚を食べますが、和白干潟ではボラを良く食べています。棒杭の上に止まって水中にいる魚を見つけ、飛び上がり水中に足から飛び込んで魚を捕ります。ミサゴの姿はかっこよくて、観察会では子どもたちの人気の鳥です。大きなボラを捕まえたけれども、重くて飛びながら運べずに泳いで岸まで持って行ったことがありますが、カラスに狙われてボラを取られてしまいました。タカと言えども集団のカラスより弱いようです。海岸の切り立った岩の上などに巣を作り、繁殖しているそうです。(山本 廣子)

【編集】松藤 真理奈・山本 廣子・山之内 芳晴・田辺 スミ子・松田 元・今林 眞由美
《カット》くすだひろこ

★次号は2022年10月に発行予定★

【編集後記】夏の干潟は冬の鳥たちのような賑わいはありませんが、草花と小さな生き物たちの静かな賑わいに溢れています。岸辺の草むらや砂浜をそっと覗いてみると、静かだと思っていた干潟が、とてもたくさんの生命を育てているのに気づかされます。(今林)